

# 花高同窓会報



## 第107号

発行 平成26年2月26日

秋田県立花輪高等学校  
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (有)大館孔版社



## 夢を駆ける市民ランナー

会員寄稿

### 『夢に向かかって』

能代市在住 鈴木 絵里 (高54期)

第25回全国高校駅伝大会では、私たちの後輩が良く頑張りました。本当にすごいなと思いましたし、私も元気をもらっております。

私は全国高校駅伝で2年連続で1区を走らせて頂いたのですが、結果を出すことは出来ず、後ろから教えた方が早かったです。でも、走ることが好きなので、今まで諦めずに走ることができています。

今回も田沢湖マラソンの招待でホノルルマラソンに行ってきました。朝5時のスタートなので、2時には起きてホテルからバスで、

### ホノルルマラソン 2013

日本人トップでゴール!!

日本初の大活躍を走ったことは、とても貴重な体験になりましたし、支えてくれる家族や周囲の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。派遣で出場させて頂いた

台北ハーフマラソンでは、ホノルルの1週間後のレースということで、まだ足の疲れが残っている中で優勝することができ

した。初めて先導車について走る経験をし、ゴール後は報道陣のインタビューに囲まれるなど海外では記憶に残る、とても楽しい時間を過ごすことができました。

私の走りの原点はすべて高校時代、花輪で過ごした3年間にあります。共に走った仲間、ご指導して頂いた先生、自分一人の力だけではなく、こういった支えてくれる方々への感謝の気持ちを『走ることで恩返し』をすることを教えて頂きました。これからもマラソンでの自己ベストを目標に、夢に向かって走り続けたいと思います。大先輩でもあり、憧れの浅利純子さんに一歩でも近づけるように...



### 平成26年度 総会・参加者受付中!!

- 日時：平成26年5月10日(土) PM6~
- 場所：芳如荘
- 会費：3,000円
- 記念講演 『鹿角に元気を！ スイッチ・オン』

鹿角きりたんぼFM株社長 安保

朗氏 (高42期)

受付：☎0186-23-2126

担当：木村まで



高校1年時  
全国大会1区勇走!

### 第25回全国女子駅伝壮行会!!

12月16日、同窓会より井上会長他3名が参加し、後輩を激励する。結果は19位の大健闘。

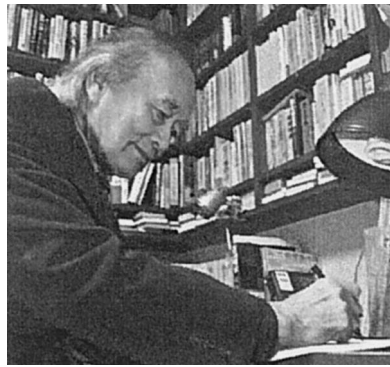


記念寄稿

東北人の美德

第98回直木賞作家 阿部 牧 郎 (高4期)

花輪高校の後輩と云っても千差万別。一人一人がみな異つています。本人の資質も、好き嫌いも、家庭環境も、将来の進路も各人が別々のはず。都市で進学する人も地元で就職する人もいろいろだし、女性の結婚先も県外だったり地元



だったりさまざまでしょう。

それを強いて十把一絡げにし、役に立つことを云おうとすれば、まず全員が東北人であることを念頭に置く必要があります。東北人の多くはきびしい自然環境と苦しい農作業で鍛えられ、忍耐、根気、辛抱、粘りなどの美德と重ね合せてイメージされています。

東北人は困難に直面しても音をあげない。なんとか粘り抜いて目標を達成する。もくもくと努力し、朴訥で裏切らない。

多くの東北出身者は世間からそのように期待され、成果をあげてきました。東北出身の兵士が誠実で精強だったことは明治以来いくらかでも戦史から拾い出せるのです。

現在の花輪高は男女ともマラソンやスキーで、秋田県でも指折りの強豪だといわれています。つまりわれわれの後輩たちは東北人の美德である忍耐、根気、辛抱、粘りなどを県内でもっとも濃厚に保持してきたのです。花輪高の生徒は東北人中の東北人だと云つてよいでしょう。これは誇るべきことです。

後藤新平、原敬、斎藤実、米内光政、新渡戸稲造、内藤湖南ら東北出身の偉人は多い。われわれの後輩のなかからみれば匹敵する大政治家、大学者が将来かならず出現するものとわたしは信じています。

一つ気がかりなことがあります。それは世の中の近代化、能率主義化があまりに早く進んで、東北人の美德があまり必要とされなくなっているように見えることです。

『恩師の言葉「爆進」』

花輪 児玉 政明 (高42期)

「その1秒を削り出せ。」正月に行われた箱根駅伝で、二年ぶりに総合優勝した東洋大学のテーマである。優勝奪還へ向け一年間練習し、見事王者に返り咲いた。選手たちはこの先の人生において、この言葉を忘れることはないと思うに違いない。

私自身も、今でも人生において心が折れそうになった時や、自分を鼓舞する時に思い出す言葉がある。それは「爆進」という言葉で

『故郷への感謝の気持ち』

尾去沢 小田 修 (高20期)

ある。高校三年時、スキー部の年間のテーマであった。当時の監督、久慈篤雄先生、川又久弥先生から幾度となく練習中に言われ、目標に向かって練習や試合に臨んだ記憶が蘇る。その言葉と共に、目標に向かったプロセスを今でも大事にしている。

この春卒業する皆さんの多くが進学や就職のため鹿角の地から離れることでしょう。希望と不安を持ちながらも夢や可能性にチャレンジしようとしていることに心からエールを送ります。

この鹿角の地には映画館も、若者が楽しむ場もありません。大きな会社も、働く場も少ないことから人口も毎年減って、高齢化も進んでいます。その中で、皆さんの親、地域の人々は黙々と長年続いてきた地域の文化や伝統を守り、仲間や社会の和を大切に、心豊かな地域社会を守りながら、皆さん

教頭挨拶

初めての母校

教頭 山田 徹 弘 (高26期)



木の温もりのある、明るい綺麗な校舎。中庭があり、体育館二階には周回走路。恵まれた環境の中で、穏やかに育っている花高生。新校舎となつて十年

のある地域に愛される学校となるよう、部活動の活躍は勿論、行事やボランティアなどにも地域と一体となつて取り組んでいる。九十年になろうとする歴史に新しい1ページを刻み、次代を切り拓いていこうとする生徒を育てたい。

同窓会から温かいご支援を頂きながら、初めて勤務する母校で心を締められている。

一心で伝統的な美德をわすれぬように。老婆心ながら後輩諸君の健康をお祈りします。

プロフィール

阿部 牧 郎 (あべまきお)

一九九三年九月四日生まれ。大館中学(旧制)〜花輪高校〜京都大学文学部卒。一九八八年、八回目候補作であった『それぞれの終業章』で第九十八回直木賞を受賞。

昭和二十年三月の戦争激化により、父の実家である鹿角に疎開し、大学入学まで鹿角で過ごす。近著に『神の国に殉ず小説・東条英機と米内光政』『定年直後』など。

横顔

- 前任：秋田西高校・教頭
●高校：ソフトテニス部
●趣味：囲碁
●座右の銘：「大志貫徹」



を応援し続けています。皆さんを育ててくれた「故郷」への感謝の気持ちをいつまでも忘れないで下さい。

『二技万練』

花輪 中山 一男 (高21期)

私は、花輪高校野球部員として甲子園を目指し、3年の時には3回戦まで勝ち進みました。当時、甲子園は夢の夢だと思っていましたので、悔しかったものの結果には十分満足していたものでした。

昨今は、県南、中央、県北とも実力が伯仲しており、とりわけ今回の21世紀枠での角館高校の甲子園出場は叶いませんでしたが、我が母校も努力次第では「甲子園」出場も「夢」ではないと心から期待している一人であります。

私の好きな言葉として「一技万練(いちぎまんれん)」があります。「千鍛万連」という宮本武蔵の言葉から生まれたと言われ、意味は、一つの技は、万回繰り返し練習しないと物にならないほど、日数がかかるという意味だそうです。

日々高い目標を持って、こつこつと努力することが大事であるということでしょうか。

何事にも言えることだと思えますので、高校生の皆さんには是非、それぞれの「夢」に向かって頑張ってくださいと思います。

『人間万事塞翁が馬』

花輪 児玉 悦郎 (高26期)

何か問題が発生した場合などにいつも私の頭をよぎるのが、この言葉です。

この言葉の意味は、人生の不幸は予測したいことのたとえですが、つまり、悪いことばかり続くものではない。また、喜んでばかりはいられない。禍福に一喜一憂するのは賢明ではないという意味です。

目標や目的に進む時には、いろいろ問題が発生し、挫折をしたり、あるいは目的達成したりしますが、そのことが巡り巡ってどの様に展開するかは誰にもわかりません。全てを受け入れてポジティブな発

卒業企画第2弾 『私の好きな言葉』

昨年の鹿角市議会議員選挙において、8名の本校出身者が当選した。人間誰しもが、人生の岐路に立たされたとき、言葉の力を感じるものであろう。「好きな言葉」はあってもいいと思う。その言葉を人に、後輩に伝えてもいいのではと思う。

想が出来る度量みたいなもの身につけたいと常に思っています。

『大丈夫』と云うことば』

尾去沢 高杉 正美 (高11期)

初めに花輪高校女子駅伝「大丈夫チーム」ご健闘おめでとう。心から嬉しく思います。

全国大会に出場した選手一人一人が、しっかりしていて、危なげなくレース運びができていました。

監督は、選手一人一人に安心と自信を与えるため「大丈夫だから行け」と言う。

また親は、子供達に自信がない時とか、不安感を抱いている場合は、必ず「大丈夫だから」と優しく言う。

花高生は、文武両道の観点から、社会に出て様々な場面に出会うことだろう。

その時、必ず「大丈夫」と奮起させてほしい。

『新鮮な心をもって』

花輪 吉村 アイ (高19期)

高校生活最後の現代国語の授業で、先生が黒板に大きく「新鮮」と書いた。卒業する私達生徒へのはなむけの言葉であった。

その先生の授業は楽しかった。詩の暗唱、読書感想文、文学の研究論文等、夢中で三年間先生の出す課題に取り組んだ。

文章を書くこと、人前で話すこと、芸術を鑑賞することが大人になつてから人生を豊かにすることを知らず知らずのうちに学んでいたと思う。

十九歳で心に刻んだ「新鮮」という言葉は、二十代では若さの中に輝き、四十代では活力ある生活の中で時々頭を持ち上げ、そして今、六十代。当時の先生の年齢を超えても、その言葉は私の心の中で生き続けている。

これからも新鮮な心をもって生きていきたい。

『ねばり強く生き抜く!』

花輪 福島 寿栄 (高14期)

高校最後の授業で、担任教師より贈られた言葉が「信頼される人間になれ」でした。

四年間の大学生活は、新聞配達のアルバイトを三ヶ月経験した。

2020東京オリンピック決定!!

『夢に向かって Part II』

十和田 高橋 純 子 (高40期)

「2020 TOKYO」

六年後の二〇二〇年、東京でのオリンピック開催が決まりました。私が初めてオリンピックを見た記憶は、一九八四年のロサンゼルスオリンピックです。女子マラソンがオリンピックの公式競技となり、ドキドキしながら「オリンピック」

と聞きながらテレビを見ていました。その後、実業団への就職が決まり、高校を卒業するとき「絶対にオリンピック選手になりたい」と思い、夢・目標が明確になりました。

一九九五年、国内での選考会で優勝することができ、アトランタオリンピックに出場することができましたが、実はその四年前、バルセロナオリンピックは選考会で勝つことができず、オリンピックの

四時に起き配達が終わるのが七時、夕刊配達のため午後三時に戻らなければならず、疲れて授業中居眠りするため辞めて、土・日だけ配達する寿司屋の出前バイトに変え、以後卒業するまで雇ってもらった。



世界陸上女子マラソン大会

九月から三ヶ月間真面目に働いた結果、主人に認められ冬休みも

帰省しないで毎日バイトをした。二年目から念願の研究室に入れて時間が金には余裕のない生活でしたが信頼を得るための貴重な体験を東京で積んだと思っております。古希を過ぎた今、故郷を元気にする仕事をして後輩に託したいと考えております。

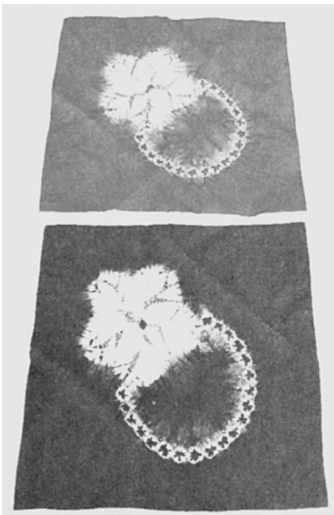
# ようこそ先輩

## 『社会人講話を行って』

花輪 安保 朗 (高42期)

社会人としての心構えや仕事に対する取り組み方の話をと依頼され、僭越ながら教壇に立たせて頂きました。正直、長く一つの職業に取り組んできた訳ではないので、期待に応えられる話をする自信はありませんでしたが、ありのままに自分の歩んできた道をお話しさせて頂きました。転職を多くする事がベストではありませんが、目的・目標のある転職をすることによって糧になる出会いやスキルアップに繋がるといふ道もあるのだという事を話させて頂きました。

真剣な眼差しで、話を聞き、ノートびつしりとメモを取ってくれる子もいて嬉しく思い、また、この子達が将来を地元で過ごしていけるよう、我々卒業生の使命を考えさせられる時間でもありました。



栗山文一郎さん作の茜染(上)と紫根染(下)のふくさ

## 『紫根染・茜染の復活を目指して』

NPO 関善賑わい屋敷

副理事長 大森 好一 (高26期)

私の本業は建物の設計ですが、NPO活動として、花輪の街中で唯一の観光施設・旧関善酒店(国の登録文化財)において、花輪市日の管理をしながら、町興し活動をしています。その一環として、平成24年から一般市民が集まり、もう一つの文化財「紫根染・茜染」の復活事業を行っています。

かつての栗山家の染色を目標とし、絶滅危惧種・日本紫草を

栽培しながら、染色の研究をしているところです。

「紫根染・茜染」は、花輪小学校の校歌にも登場し、鹿角の伝統であり、また誇りでもありました。その花輪小学校で、子供たちに鹿角の文化を伝えるために、研究会員が茜染の指導を行っています。今後、花輪一中でも予定されています。

失われた鹿角の伝統と誇り、そして町の賑わいを取り戻すために一般市民が自主的に活動しています。これは、鹿角の新しい文化や歴史を造る活動でもあります。

こういう人々が増えれば、鹿角の将来は明るいものだと信じています。多くの人々がこの活動に参加することを期待します。



染色作業を体験する佐竹知事

## 一よろしくお願ひしますー

第66期 学年幹事 (H25年度卒)

A組	○栗山芽依	大栗山	山本美	依里魅
B組	栗山三ヶ田	山本美	山本美	山本美
C組	栗山三ヶ田	山本美	山本美	山本美
D組	栗山三ヶ田	山本美	山本美	山本美

○印は学年代表幹事

### 平成27年度版会員名簿

《名簿発行スケジュール》

- 26・3 会員データの整備 & 名簿作成準備
  - 4 学年幹事へ 新情報提供依頼
  - 6 新情報整備
  - 7 調査ハガキ発送
  - 11 原稿提出締切
  - 2 校正の責了締切
  - 3 変更・訂正の最終締切日
  - 4 校正・印刷・制本
- ↓ 完成

ー 会員皆様のご協力を  
よろしく  
お願い致しますー

神田 昭治 (高20期) 副幹事長・八幡平



### 『人生の岐路』

入学時の選択教科で音楽の希望者が多かったため美術に変更したら、素敵な教師との出会いがあり現在も授業が続いている。

三学期が始まって「進路が決まっていないうちはおまえだけだ」と言われて勧められた仕事に就き「酒飲んで給料を貰っている」と言われてきたが、今もその延長線上にある。

二十二歳の春、自暴自棄となり睡眠薬を買って求めたとき、「その薬は幾ら飲んでも死なないから」という背中からの店主の声を聞きただ眠り続けていた。

自分の意思に係わらず時は流れてゆく。人生には幾多の分岐点があるが、プラス思考に気づけば、何んとかなるものだ。

入学時の選択教科で音楽の希望者が多かったため美術に変更したら、素敵な教師との出会いがあり現在も授業が続いている。

三学期が始まって「進路が決まっていないうちはおまえだけだ」と言われて勧められた仕事に就き「酒飲んで給料を貰っている」と言われてきたが、今もその延長線上にある。

二十二歳の春、自暴自棄となり睡眠薬を買って求めたとき、「その薬は幾ら飲んでも死なないから」という背中からの店主の声を聞きただ眠り続けていた。

自分の意思に係わらず時は流れてゆく。人生には幾多の分岐点があるが、プラス思考に気づけば、何んとかなるものだ。